

くらしのなかの近世陶磁器

解説資料

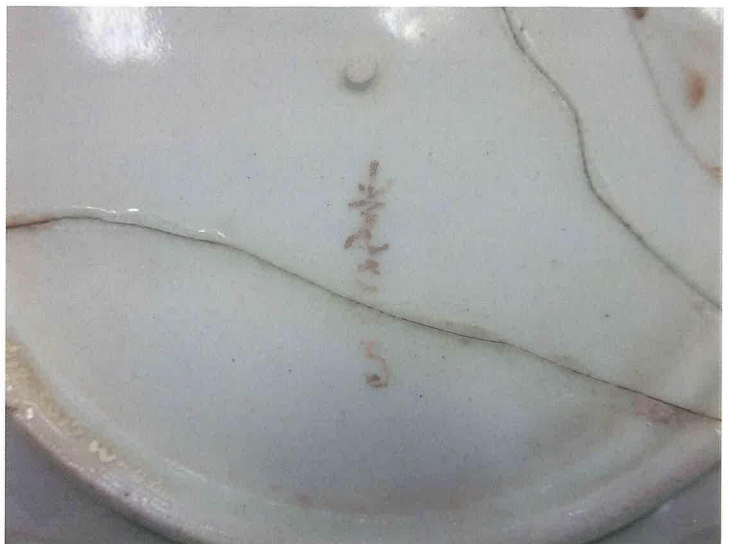
江戸時代の遺跡の発掘調査では、膨大な生活廃棄物(ゴミ)が出土品として発見され、そこには人びとのくらし向きが反映されています。出土品のなかで最も多くの割合を占める陶磁器には、伊万里焼や唐津焼といった「やきもの」があり、これらは碗・皿などの食器として製作されただけでなく、化粧道具・祭器・花入など、用途に応じたいろいろな形の器が誕生し、使用されました。今回の企画展では、大分市の「府内城・城下町跡」などの発掘調査で出土した近世陶磁器を通じて、くらしのなかで陶磁器が果たした役割を探ります。



染付皿(禁裏御用品)・肥前
府内城・城下町跡12次調査SK017
大分市教育委員会 18世紀末～19世紀前半

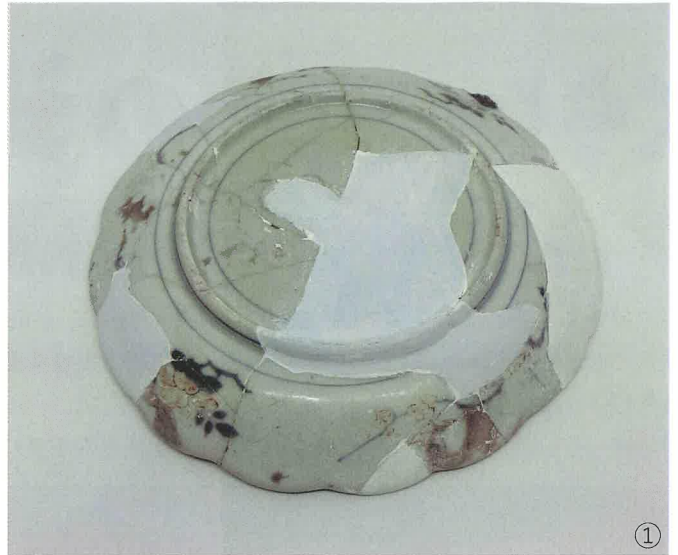
中央を円形の白抜きとし、内面に十六花卉の菊御紋と鶴・牡丹の文様を配する染付皿である。このような器は「禁裏御用品」と呼ばれ、江戸時代に肥前(現在の佐賀県)有田の辻家で主に製作された。「禁裏御用品」とは天皇家に献上され御所で使われた器で、天皇から御所に仕える人々に下賜されることもあった。

高台内は無文であるが、朱描きで「光さい寺」の焼継文字が認められることから、この皿が光西寺(大分市末広町)の所有品であったことがわかる。禁裏御用品の染付皿が光西寺に所有される経緯としては、住職の妻が公家出身であったことが背景に考えられている。





①



①



②



③



④

- ①色絵輪花皿・肥前 18世紀前半
- ②染付皿・肥前 17世紀後半
- ③染付皿・肥前 17世紀後半
- ④染付皿・肥前 18世紀前半

寛保3年(1743)大火一括資料
 府内城三ノ丸遺跡SK14・15
 大分県立埋蔵文化財センター
 17世紀～18世紀前半までの陶磁器を含む

寛保3年(1743)4月7日に発生した「寛保の大火」で被災した一括資料である。「寛保の大火」とは江戸時代において府内城下で発生した最大規模の火災で、昼八ツ時(午後2時頃)に下柳町(現在の大分市都町3丁目付近)市兵衛宅より出火し、城下町の約7割に当たる42町、家数1079軒が焼失した。また、府内城内でも天守・三階櫓・御殿など大半の施設が焼失した。

府内城三ノ丸遺跡SK14・15は、現在の大分県庁新館建設に伴う発掘調査で検出された火災処理遺構である。当該地点は府内藩の家老などを務めた木村家が所在した上級武士の居住域であり、染付皿や色絵皿などの高級食器が多量に出土している。

出土品の中には同一規格となる「揃いの器」が溶着しているものもあり、屋敷内で使用された食器が土蔵の棚などに重ねられた状態で収納されていたことがわかる。

色絵広東碗・肥前
府内城下町遺跡
大分県立埋蔵文化財センター
18世紀末～19世紀前半

広東碗は高台が高く体部が外に開く器形となるもので、その形は中国清朝で作られていた磁器碗の影響を受けたといわれている。写真の製品は赤や金色など、華やかな色彩で青海波・松竹梅などを描いており、同一規格のものが2個体出土している。



色絵阿蘭陀人物文小杯・肥前
府内城・城下町跡
大分市教育委員会
18世紀中頃～後半

小型の小杯で、外面に阿蘭陀人(人差し指に小鳥を止まらせている)・洋犬・欄干などが描かれている。表面が被熱して荒れており、火災を受けた資料であることがわかる。



青花十分杯・中国景德鎮
府内城・城下町跡
大分市教育委員会
17世紀

十分杯とはサイフォンの原理を利用した酒器である。内容量の八分目までなら漏れないが、並々と注ぐと底の穴から液体が流れ出す「からくり構造」となっている。中央部に仙人をかたどった支柱をもち、外面には山水風景文が描かれている。





染付紅皿・肥前

府内城三ノ丸遺跡
大分県立埋蔵文化財センター
19世紀前半～中頃

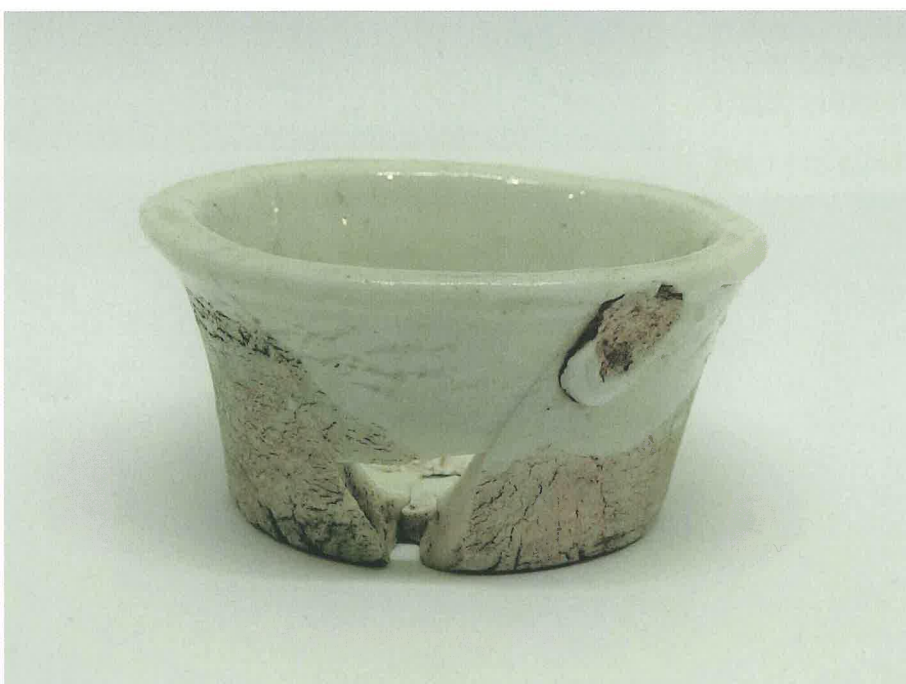
内面に化粧用の「紅」を塗り付けた小皿で、紅はほとんどが剥落している。外面に「大坂新町お笹紅」の文字が描かれており、大坂の販売店が紅皿容器を肥前に注文して製作していたことがわかる。



染付合子・肥前

府内城三ノ丸遺跡・府内城下町遺跡
大分県立埋蔵文化財センター
19世紀前半～中頃

蓋の外上面に「肥後 渡辺 烏犀丸一廻入」の文字が描かれている。烏犀丸とは婦人病・卒中などに効く薬名であり、肥後の薬の販売店が、その容器を肥前に注文して製作したものである。



白磁鳥餌入・肥前

府内城三ノ丸遺跡
大分県立埋蔵文化財センター
19世紀前半～中頃

口径5.5cmほどの小型の容器で外面の一部と内面に白磁釉が施されている。把手が欠損しているが、この部位を鳥カゴの内面に引っかけて、鳥の餌入れ、または水入れとして使用していたと思われる。



①



②



③

①染付草花文水滴 ②染付舟形水滴 ③染付竹形水滴

染付水滴・肥前

府内城・城下町跡 大分市教育委員会 18世紀後半～19世紀前半

水滴は墨をするための水を硯に注ぐ容器である。大きさや形はさまざまな種類があり、文房具として愛玩された製品もある。

色絵鶏形人形

(柿右衛門人形)・肥前府内城・城下町跡
大分市教育委員会
17世紀末～18世紀前半

土型を用いて成形された磁器製の人形で、鶏をかたどった製品である。体部に白磁釉、鶏冠・嘴・顔・足部に色釉が施されている。



色絵武者人形

(柿右衛門人形)・肥前府内城・城下町跡
大分市教育委員会
17世紀末～18世紀前半

顔部を欠損しているが、腰に刀を差した武者をかたどった人形である。赤・緑・水色などの色釉を使って、鎧を着た様子が表現されている。背面には旗指物を挿入するための孔が開けられている。





焼継師（『江戸商売図絵』より）

焼継師

「焼継」とは割れた陶磁器を補修する方法のひとつで、府内城下では19世紀中頃の一括資料に焼継の補修がなされた資料が多く認められることから、江戸時代末頃に大流行したと推定される。

まず、割れた碗や皿の破片の割れ口に「白玉粉」と呼ばれる鉛ガラスの粉末を塗布し、元の形状に固定する。次に、加熱することで、陶磁器の割れ口に塗った鉛ガラスを熔かし、破片どうしを接着する。焼継が行われた資料を観察すると、接着剤として使用された鉛ガラスの痕跡を確認することができる。

このような器の修繕を商売として行う職人は、「焼継師」とよばれた。出土品の中には焼継師がいたと思われる印や注文主の名前がある陶磁器があり、これによって出土地点の町名や屋敷の所有者がわかる事例も多い。



染付蓋・肥前 府内城三ノ丸遺跡 大分県立埋蔵文化財センター 19世紀前半～中頃

矢印は接着剤として使用された鉛ガラスの痕跡。天井部には「木村」の朱描き文字がある。木村家は府内藩の家老や用人を務めた上級武士。この出土品から調査地点付近が木村家の武家屋敷であったことがわかる。



染付碗・肥前 府内城下町遺跡 大分県立埋蔵文化財センター 19世紀前半～中頃

左の資料には「四ツ 新丁 染や」、右の資料には「新丁 白堀 □や」の朱描き文字がみえる。「新丁」とは「西新町」の意味で、「染や」「□や」は西新町に存在した商店の名前である可能性が高い。調査地点付近が江戸時代の豊後府内「新町（西新町）」であったことを示す。

地震で捨てられた陶磁器と焼継文字

SK017は長軸1.4m、短軸0.8m以上、深さ1.8mの規模をもつ廃棄土坑(ゴミ穴)である。埋土からは1,000点を超える極めて多量の陶磁器が出土した。これらの中には二次的に焼けたものが多くみられることや陶磁器の年代観などから、安政元年(1854)11月4日から7日にかけて発生した大地震に伴って廃棄された一括資料と推定されている。

これらの資料の中で、焼継が施された資料は244点におよび、焼継文字が記された資料は85点を数える。その地名を見ると、府内城下町の町名や城外に所在した村名などが含まれる。

これらのことから、本調査地点は焼継師の居住地であり、焼継師が各地を巡って預かっていた陶磁器が安政の大地震で被災したものだと考えられている。焼継文字にみられる地名から、焼継師の活動範囲を知ることができる希少な資料群である。

なお、表紙で示した禁裏御用品の染付皿も、この土坑からの出土品である。



府内城・城下町跡第12次調査SK017

大分市教育委員会2003『府内城・城下町 第12次発掘調査報告書～旧米屋町における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～』より

焼継文字に記された地名



「天神町」(府内城下の天神町)



「東新町 おたつ」(府内城下の東新町)



「牧 吉」(府内藩領牧村)



「おしの 増次」(延岡藩領鷺野村)



「片嶋 四郎右衛門」(延岡藩領片島村)



「乙津 加とや 四」(幕府領乙津村)

展示資料一覧

資料名	産地	数量	遺跡名または報告書名 (括弧内は調査回数)	年代
〔揃いの器と被災資料〕				
府内城三ノ丸遺跡SK14・15出土品	肥前ほか	57	府内城三ノ丸遺跡	17~18世紀前半
〔いろいろな形の器〕				
(磁器碗)				
染付丸碗(くらわんか碗)	肥前	2	府内城三ノ丸遺跡(1次・28次)	18世紀後半
色絵広東碗	肥前	3	府内城下町遺跡(9次)	18世紀末~19世紀前半
多重線縁文端反碗	伊予砥部	1	中尾近世墓地	19世紀前半~中頃
(陶器碗)				
陶胎染付碗	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡Ⅲ(25次)	18世紀前半
刷毛目碗	肥前	1	中尾近世墓地	18世紀前半
京焼陶器碗	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡Ⅲ(25次)	18世紀前半
陶器碗	信楽	1	中尾近世墓地	18世紀前半
(皿・鉢)				
染付小皿	肥前	2	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
染付小皿	肥前	2	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
染付長皿	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡Ⅳ(28次)	19世紀前半~中頃
染付鉢	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
染付鉢	肥前	1	中尾近世墓地	19世紀前半~中頃
(そば猪口・子杯)				
染付猪口	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡(1次)	18世紀前半
染付そば猪口	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡Ⅱ(2次)	19世紀前半~中頃
染付小杯	肥前	1	府内城・城下町跡11(第29次)	18世紀後半~19世紀中頃
染付小杯	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
染付小杯	肥前	1	府内城・城下町跡11(第29次)	18世紀後半
色絵阿蘭陀人物文小杯	肥前	1	府内城・城下町跡第14次	18世紀中頃~後半
※参考資料 染付異人文碗(端反碗)	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
青花十分杯	中国景徳鎮	1	府内城・城下町跡11(第29次)	17世紀
(紅皿)				
染付紅皿(内部に紅付着)	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
染付紅皿「大坂新町お笹紅」	肥前	2	府内城三ノ丸遺跡Ⅳ(28次)	19世紀前半~中頃
色絵紅皿	肥前	2	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
染付紅皿	肥前	2	中尾近世墓地	19世紀前半~中頃
白磁紅皿	肥前	2	府内城三ノ丸遺跡Ⅲ(25次)	19世紀前半~中頃
染付紅皿(瀬戸美濃)	瀬戸美濃	2	府内城三ノ丸遺跡(1次・28次)	19世紀前半~中頃
(仏飯器・香炉ほか)				
染付仏飯器	肥前	2	中尾近世墓地	19世紀前半~中頃
陶器仏飯器	肥前	1	中尾近世墓地	19世紀前半~中頃
色絵仏飯器	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
染付香炉	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
青磁香炉	肥前	1	中尾近世墓地	19世紀前半~中頃
色絵御神酒徳利	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
染付「寿福」文瓶	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
(筆立・灰落・鳥餌入・合子)				
染付筆立	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡Ⅲ(25次)	19世紀前半~中頃
染付灰落	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡Ⅳ(28次)	19世紀前半~中頃
白磁鳥餌入	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
合子蓋(鳥罌円)・身	肥前	5	府内城三ノ丸遺跡(1次・9次)	19世紀前半~中頃
(水滴・掛花入・戸車)				
染付草花文水滴	肥前	1	府内城・城下町跡11(第29次)	18世紀後半~19世紀中頃
染付熊竹形水滴	肥前	1	府内城・城下町跡11(第29次)	18世紀後半~19世紀中頃
染付舟形水滴	肥前	1	府内城・城下町跡11(第29次)	18世紀後半~19世紀中頃
色絵蓮瓣形掛花入	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡Ⅲ(25次)	19世紀前半~中頃
色絵人形掛花入	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡Ⅲ(25次)	19世紀前半~中頃
陶器巾着形掛花入	福岡産?	1	府内城・城下町跡11(第29次)	18世紀後半~19世紀中頃
白磁戸車	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡Ⅲ(25次)	
(人形・飯事道具)				
色絵武者人形(柿衛門人形)	肥前	1	府内城・城下町跡第12次	17世紀末~18世紀前半
色絵鶏形人形(柿衛門人形)	肥前	1	府内城・城下町跡8(第19次)	17世紀末~18世紀前半
染付飯事道具	肥前	4	府内城下町遺跡(9次)	19世紀前半~中頃
白磁飯事道具碗	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡Ⅲ(25次)	19世紀前半~中頃
〔器の修繕〕				
染付碗・蓋(「木村」焼継文字)	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡(1次)	19世紀前半~中頃
染付碗(「入 孫九郎様」焼継文字)	肥前	1	府内城三ノ丸遺跡Ⅱ(2次)	19世紀前半~中頃
染付広東碗(「手しま氏」焼継文字)	肥前	1	府内城・城下町跡8(第19次)	19世紀前半~中頃
染付猪口(「上原次郎右衛門様」焼継文字)	肥前	1	府内城・城下町跡8(第19次)	19世紀前半~中頃
染付皿(「岡木氏」焼継文字)	肥前	1	府内城・城下町跡11(第29次)	19世紀前半~中頃
染付皿(「神屋長右衛門」焼継文字)	肥前	1	府内城・城下町跡11(第29次)	19世紀前半~中頃
染付碗(「四ツ 新丁 染や」焼継文字)	肥前	1	府内城下町遺跡(9次)	19世紀前半~中頃
染付碗(「新丁 白器 口や」焼継文字)	肥前	1	府内城下町遺跡(9次)	19世紀前半~中頃
磁器碗(「竹町 孫十郎様」焼継文字)	瀬戸美濃	1	府内城・城下町跡第14次	19世紀前半~中頃
府内城・城下町跡第12次調査SK017出土品	肥前ほか	26	府内城・城下町跡第12次	18世紀後半~19世紀中頃
染付皿(「光とい寺」焼継文字)袂裏御用品	肥前	1	府内城・城下町跡第12次	19世紀前半~中頃

* アミ掛けは大分市教育委員会蔵 他は大分県立埋蔵文化財センター蔵
* 展示品の保護や展示スペースの関係から、展示替えを行うことがあります。



レキシカくん

マイカちゃん